## 内子座の歴史に残る貴重な舞台 東西の狂言師と子どもたちの共演

京都の大蔵流茂山家と東京の和泉流野村家が同じ舞台に立つ「東西狂言の競演」は10月29・30の両日、創建100周年を迎えた内子座で開かれました。

第1部では、3年間狂言を学んだきた茂山狂言クラブの子どもたちが「福部の神勤入」を披露しました。踊り念仏を唱えると、それに喜んだ福部の神が新酒を飲み謡い舞い納めるという、めでたい演目です。

第2部では内子町を題材にした新作狂言「かみ遊び」を上演。大蔵流と和泉流、地元の子どもたちが同じ舞台に立つ、初めての試みです。町の名産や名物、燈籠祭りや凧合戦などが登場する他、花道などを使った内子座だけの演出で、観客を沸かせました。茂山千三郎さんは「これからの100年に向けた大挑戦。作品を作りながら、私自身も内子の素晴らしさを再確認した」と話しました。

1_新作狂言「かみ遊び」の一場面。野村万蔵さんと茂山千三郎さんの手には燈籠とハゼの実　2_子どもたちの頑張りが光った「福部の神勤入」　3_茂山さんと野村さんが演目を解説。息の合った会話で、会場を笑わせた

## 地域に伝わる宝を次代に継承――「内子町伝統芸能まつり」

「第5回内子町伝統芸能まつり」（内子町伝統文化継承団体連絡会主催）は11月20日、内子座で開かれました。

まず愛媛県と大分県の交流事業の一環で、由布市・庄内子供神楽が出演。速い太鼓の音に乗った勇壮な舞で、幕が上がりました。由布市内外で年間60回も公演する舞台は素晴らしく、来場者の目を釘付けにしていました。

同じく特別出演した宜野座村惣慶区の婦人会と青年会のメンバーは、旧盆の時期に踊る「エイサー」など、3つの演目を披露しました。

内子町からは6団体が出演。大久保獅子舞保存会が獅子舞やしゃぎり、初出演の立川三島神社御供相撲が奉納相撲などを披露し、地域に伝わる伝統芸能を通じて、交流を深めました。

1_軽快に舞い続ける庄内子供神楽の子どもたち
2_豪華な化粧まわしで登場した立川三島神社御供相撲

## 小田の隠れた魅力を探して走ろう 大人も遊べるサイクリングイベント

「愛媛サイクリングの日」の11月13日、愛媛県内の全市町でサイクリングイベントが開かれました。（同実行委員会主催）

内子町・小田地域では「スカベンジャーハント in 内子の紅葉ルート」が行われ、町内外から65人が参加しました。

各グループが地図上に記された場所を探し、「三島神社にある巨木の名前を人文字で表す」など、遊び心がいっぱいの課題をクリアして、点数を競います。参加者は「自然がきれいで、道中も楽しめた」と笑顔で話していました。

課題の一つ、「三連鳥居の前でチュウチュウトレイン」に成功した皆さん

## 「法政大学自治体推薦首長交流会」内子町出身の学生が活動報告

「法政大学自治体推薦首長交流会」が10月27、28の両日、内子自治センターで行われ、岩手県遠野市や鹿児島県伊佐市など9つの自治体と法政大学の関係者40人が参加しました。

この会は法政大学の推薦入試の対象となっている自治体の長が集まり、意見の交換や学生との交流を深めることを目的に毎年行われ、内子町では初めての開催になります。

会では各地のまちづくり事例報告や、内子町から法政大学に入学した学生の活動報告、現地視察などが行われました。

会の冒頭で稲本隆壽（たかとし）町長が内子町のまちづくりを紹介

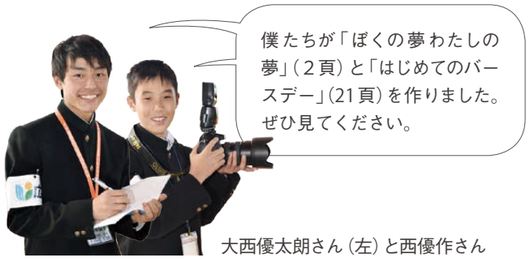
## 未来の働く自分を想像しよう 中学生の「職場体験学習」

内子町内の各中学校は年1回、「職場体験学習」をしています。

内子中学校では2年生73人が11月16・17の両日、大洲市と内子町の28カ所の事業所に分かれて職場体験をしました。

そのうち、大西優太朗（ゆうたろう）さんと西優作（ゆうさく）さんが内子町役場の仕事を体験。広報紙の取材や編集作業に挑戦した他、木蝋資料館上芳我邸で資料整理などをしました。大西さんは「取材では、相手の目を見て話すよう心掛けたが、話ながらメモを取るのが難しかった」、西さんは「初めて一眼レフカメラを手にして緊張した。広報の人たちが、笑顔などを撮るために工夫しているのが、よく分かった」とそれぞれ感想を述べました。

編集ソフトの使い方を学びながら作業する、大西さんと西さん




大西優太朗さん（左）と西優作さん